

四 中学生の西山さんは、新聞で投書を読み、その内容について自分の考えを書いて同じ新聞に投書することにしました。次の「投書」は、西山さんが読んだ投書、「資料」は、西山さんがこれまで投書を書くために準備したもので、「ノート」は、西山さんがこれまでに読んだ古典作品の中で、印象に残った一節とその現代語訳を書き留めておいたものです。これらを読んで、あとの「問い」に答えなさい。

【投書】

平成二十九年十一月一日付け

古典を学ぶ意義とは？

中学生 13歳

私は、国語の授業が好きです。ただ、この頃疑問に思うことがあります。それは、古典を学ぶ意義は何かということです。

例えば、外国語は外国人とコミュニケーションをする上で役に立ちますが、今は使わない昔の言葉は、役に立つと思えません。また、気持ちや考えを読み取るのであれば、現代の社会や生活とは大きく異なる昔の話でなくてもよいと思います。

中学生になり、扱われる古典作品の内容を難しく感じるようになりました。高校では一層高度になると聞いています。友達に「何のため古典を学ぶのだろうか」と聞くと、「入試のため」という答えが返ってきました。しかし、それでは納得できません。いったい古典を学ぶ意義は何なのでしょう。

古典とは何か。

風土と歴史に根ざしながら、時と所をこえてひろく享受されるもの。人間の叡智^注の結晶であり、人間性洞察の力とその表現の美しさによって、私たちの想いを深くし、心を豊かにしてくれるもの。いまでも私たちの魂をゆさぶり、「人間とは何か、生きるとは何か」との永遠の問いに立ち返らせてくれるもの。それが古典である。

〔「古典の日」宣言〕による。

〔注〕 叡智 Ⅱ 物事を深く見通す優れた知恵。

【ノート】

「論語」より

曾子^注曰く、「吾日に三たび吾が身を省みる。人の為^{たの}に謀^{はか}りて忠ならざるか、朋友^{ほうゆう}と交はりて信ならざるか、習はざるを伝ふるか。」と。

〈現代語訳〉

曾先生はおっしゃった。「私は毎日何度も我が身について反省する。人の相談にのったときに、真心を尽くさなかったことはないか。友人と交際して信義に背くことはなかったか。まだ自分が習熟していないことを、口先だけで人に教えたのではないか。」と。

「古今和歌集」より

ことならば咲かずやはあらぬ桜花見る我さへに静心なし
つらゆき

〈現代語訳〉

どうせ散ってしまうのなら、いつそ咲かないでいることはできないか。桜の花よ。だいたい桜は、せっかく咲いても慌ただしく散ってしまうが、その様子を見ている私まで落ち着かない気持ちにさせるものだ。

〔注〕 曾子 Ⅱ 孔子の弟子。

【資料】

〔問い〕 西山さんは、「古典を学ぶ意義」はあると考え、「古典を学ぶ意義」について、資料とノートを基に、投書の筆者の疑問に答える文章を書くことにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1～3に従って書きなさい。

条件1 【資料】の内容を踏まえて書くこと。

条件2 【ノート】の中のどちらか一つの古典作品を例として取り上げ、【ノート】に書かれている一節の内容を踏まえて書くこと。

条件3 投書の題は書かず、解答用紙に示している書き出しに続くように書き、内容に応じて段落を変え、二百五十文字以内で書くこと。ただし、解答用紙に示している書き出しの部分は字数に含まないものとする。